

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 へき地医療従事者マインド養成事業費

(地域医療介護総合確保基金事業)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療福祉連携推進課 医療人材確保係

電話番号：058-272-1111 (内 2626) E-mail：c11230@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,963 千円 (前年度予算額：1,963 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,963	0	0	0	0	0	1,963	0	0
要求額	1,963	0	0	0	0	0	1,963	0	0
決定額	1,963	0	0	0	0	0	1,963	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・県では、医師の地域偏在等により、へき地においては特に慢性的な医師不足の状況が続いている。
- ・将来医師になりたいと考えている高校生に対し、へき地医療の現場体験を通して、医師の仕事への理解やへき地医療への興味を持ってもらうことや、将来の岐阜県の医療を担う医学生に対し、へき地医療に携わる医師から、へき地医療の現状やへき地での働きがいについて講義を行うことにより、へき地医療への理解を深めてもらい、数年後のへき地の医師確保につなげることが必要である。

(2) 事業内容

- ・へき地医療への理解を深めるための研修会を、研修医等の指導実績のある医療機関に委託して開催する。
- ・へき地医療への理解を深めるための講義を、岐阜大学医学部生、自治医科大学医学部生に対して行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・県単独事業

※「地域医療確保総合確保基金」を活用する予定であるが、へき地における医師確保は急務で、本事業は必要な事業である。また、医学部生向けの講座は年間を通じて実施するものであり、また、へき地医療研修会については、夏休みに実施する予定であり、開催に向けての準備期間を考慮すると、年度当初には契約等を行う必要があることから、一般財源で予算措置を行う。

(4) 類似事業の有無

- ・医学生を対象とする「岐阜県医学生体験セミナー」がある。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	350	講師謝金
旅 費	432	委託先及び県内高校・大学等との連絡調整（県）
消耗品費	20	事務費
役務費	16	事務費
委託料	1,145	へき地医療研修会の業務委託料
合計	1,963	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県保健医療計画（第7期）
第2章 医療提供体制の構築
第8節 へき地医療対策

(2) 後年度の財政負担

- ・へき地医療体制の安定的な継続の為、引き続き、支援していく必要がある。

(3) 事業主体及びその妥当性

- ・へき地医療提供体制の確保は、市町村域を超えて、より広域的に取り組むべきものであること、また、保健医療計画上もへき地保健医療の普及と啓発を明記していることから、事業主体が県であることは妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
へき地医療に対する理解をより多くの県民に普及し、へき地で勤務する医療従事者の増加を図るため、本事業を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(H30)	(R1)	(前々年度末時点) (R2)		
へき地医療研修会参加者数	(H22) 25名	(H30) 51名	(R1) 50名	(R2) 未定	(R3) 50名	100%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
（へき地医療研修会）
開催日程：令和2年11月28日（予定）
参加者数：未定

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
「へき地医療研修会」について、参加した高校生のアンケートでは、へき地医療を学ぶことができる進路を目指したいといった声があり、高校生の将来の進路選択に大きな影響を与えていると想定される。
なお、平成22～令和元年度のへき地医療研修会参加者でH31.4時点に高校を卒業した者312名のうち、3分の1以上にあたる100名が医学部へ入学している。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>高校生にとっては、進路選択についての参考となり、医学部生については、地域住民や高校生、臨床研修医等とともにへき地医療の現場を体験できる数少ない機会を提供する事業であるため、必要性が高い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<p>毎年度継続して、多くの高校生・医学生が研修会に参加してへき地医療に対する意欲と理解を深めており、将来のへき地医療を担う世代の育成が図られた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<p>へき地医療研修会については、へき地医療についての研修プログラムに精通した、医療機関に業務委託することでより効果的な事業展開ができた。</p> <p>また、医学生地域医療推進事業については、関係大学の理解・協力を得て、事業が実施できた。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 研修会としての質をどのように維持してくかが課題となる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 参加者や行事に協力いただける地域住民等からは、是非、継続をとの声が聞かれる。高校生の中には、今度は医学部生として研修に参加したいとの希望もあり、継続すべき事業である。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	